

## 車椅子とアイマスクを体験

車椅子とアイマスクの体験が10月30日、市社会福祉協議会周辺で行われました。

市身体障害者福祉協会（岸田義孝会長）の主催による県身障連ブロック研修会の一環で行われたもので、バリアフリー化の大切さを行政関係者等に体感してもらうために開催されたものです。

この日は、身障協会会員、市長、市議会議員、市職員など約40人が参加し、車椅子とアイマスク体験に分かれて社会福祉協議会前を出発。市内の歩道の通行などを体験しました。

体験を終えた同協会会員の瀬戸勝利さん（御厨・駅通、65）は「アイマスクを体験して、小さな段差でも怖く感じました。側溝蓋の穴に杖を取られそうになることもあり、バリアフリーの大切さを実感しました」と話していました。



## 県道の樹木を伐採

鷹島町の建築関係者からなる鷹島町建築組合の組合員と蓮乗院の役員が11月1日、樹木の伐採作業を行いました。

同組合員と同院役員は、日ごろから町内の環境整備や美化活動に取り組んでおり、今回は石川地区の県道に松の木などがせり出してきて、通行に支障をきたしていたため行ったものです。

この日は、チェーンソーを使って松の木20本や雑木などを切り倒す作業を、20人で約5時間かけて行いました。



## 小中学生が合唱などを披露

平成19年度松浦市小・中学校音楽会が11月16日、文化会館で開催されました。

音楽に対する関心・意欲と音楽を愛好する心情を高め、心豊かな人間の育成を目的に毎年開催されています。

この日は、市内の全小中学校18校が参加し、小学生は合唱や合奏、中学生は吹奏楽部による演奏などを披露。会場に訪れた保護者や先生など約400人は、元気な歌声や美しい音色の演奏に聞き入っていました。



## おにぎり食べて国際交流

上志佐保育所（辻久敏所長）で11月10日、「おにぎり食べて国際交流」があり、園児がALT（外国語指導助手）と交流しました。

同保育所の園児が有機栽培で育てたハウレンソウやサツマイモ、地元で収穫された米を使って、松浦市の「食」を味わってもらい、子どもたちにも英語に親しむ機会をつくらうと計画されたものです。

この日は、市内のALT4人が参加。園児たちはALTとゲームをしたり、似顔絵を描いたりして楽しみました。おにぎり作りでは、ラップで包んだご飯を楽しそうに丸め、ハウレンソウやサツマイモ入りの豚汁と一緒においしく味わっていました。



## 児童が中国の影絵を体験

劇団影法師による中国伝統芸術「皮影戲」と呼ばれる影絵公演が10月23日、星鹿小学校体育館で行われました。

芸術を愛する心を育て豊かな情操を養うことを目的とした文化庁の「本物の舞台芸術体験事業」で行われたものです。

「皮影戲」とは、動物の皮に色付けをした人形を使う影絵のことで、この日は中国唐山市皮影劇団の演技者2人も参加し、中国寓話「鶴と亀」と「西遊記—三打白骨精の巻—」の公演が行われました。「鶴と亀」では同校の児童7人が劇団員と人形操作に挑戦。魚やカエルが泳いだり飛び跳ねる様子を表現しました。

演技を終えた4年の倉橋里歩さん（星鹿・川原辺田）は、「簡単かなと思っていたけど、実際にやってみると生きているように魚のしっぽなどを細かく動かすところが難しかったです」と話していました。

10月22日には上志佐小学校でも行われました。



## 九州電力が 小中学校に石炭を寄贈

九州電力松浦発電所（中西章夫所長）が、市内各小中学校に石炭を寄贈しています。

身近にある火力発電所に親しみを持ってもらい、エネルギー学習に活用してもらおうと同発電所が企画したもので、来年までに市内の全19校に贈る予定です。

今福中学校では10月31日に、和田英哉副所長が同校3年の三木宗一郎君と末竹由衣さんの2人に、ケース入りの約1キの石炭を手渡ししました。同校では、エネルギーの学習に加え、同町の炭鉱の歴史についての学習にも活用していく予定です。

## 小中学生が夢などを発表

松浦ライオンズクラブ第20回小中学生弁論大会が11月3日に文化会館で開催され、小学生の部で川上湖代美さん（大崎小6年）が、中学生の部で山下みさきさん（青島中2年）が最優秀賞に輝きました。

市内小中学校からの372点の応募の中から、各学校での事前審査で選ばれた優秀賞の小学生12人、中学生7人が将来の夢や願いなどをテーマに発表しました。

川上さんは「夢に向かって」と題して、両親が教えてくれた「あきらめないこと・精いっぱい頑張ること・笑顔を絶やさないと」を生かして、教師になる夢を実現したいと発表。山下さんは「ほっとかない」と題して、ラジオで耳にした「ほっとかない」という一言を通して「いじめ」についての考えを発表しました。

また、「たくさんの人の支えの中で」と題して発表した福本紘生君（星鹿小6年）と、「言葉でつながる」と題して発表した森未菜美さん（調川中3年）が審査員特別賞に選ばれました。

## —小中学生弁論大会—

その他の発表者（優秀賞）は次の通りです（敬称略）。

【小学生の部】 山野夏稀（養源小5年）、吉永健人（調川小6年）、吉永楓（今福小6年）、川久保俊希（福島小6年）、金井田優（御厨小6年）、松口仁美（志佐小6年）、松本彩香（田代小6年）、真木美沙輝（上志佐小6年）、辻川優海（青島小6年）、梶村研治（鷹島小6年）

【中学生の部】 前田絵里奈（鷹島中3年）、川本沙矢香（福島中3年）、坂元美紀（志佐中3年）、久重路綯（今福中3年）、畑原春菜（御厨中2年）



小学生の部最優秀賞  
川上湖代美さん



中学生の部最優秀賞  
山下みさきさん

## 人権集会に掛屋君の歌声が響く

人権集会「掛屋剛志君コンサート」が11月13日、調川小学校体育館で行われました。

知的障害や視覚障害などのハンディの中、3歳のころにけん盤ハーモニカと出会ったことで音楽の楽しさを覚え、自ら作詞作曲もしている掛屋君。障害に負けず可能性に挑戦する生き方を児童に学んでほしいと同校が企画したものです。



この日掛屋君は、自ら作詞作曲した「おかあさん」など11曲を演奏。集まった同校児童や調川中学校の3年生、保護者など約200人は、掛屋君の美しい演奏と歌声に聞き入っていました。



## 子育ての知識を伝授

「みて！きて！あそんで！すくすくフェスタ」が11月11日、文化会館で開催されました。

子育て支援月間にちなんで、市内の保育所で組織する松浦地区保育協議会（辻久敏会長）が開催。子育ての専門的な知識を、地域の人に提供しようと昨年からは開催しています。

この日は、市内の就学前の子どもと保護者約400人が参加し、チビッコカーレースや服などのリサイクル品配布、保育所のおやつを試食、絵本・読み聞かせ、「健康戦隊フクシマン」ショーなどが行われました。親子で楽しく子育てについて学びました。

## みんなで火の用心 ー秋季全国火災予防運動の取り組みー

秋季全国火災予防運動（11月9日～15日）にちなんで、防火ポスターの審査会と防火パレードが行われました。

### 防火ポスター

秋季全国火災予防運動にちなんで募集された防火ポスターの審査会が11月5日、松浦地区消防署で行われ、最優秀賞など17点が決定しました。

管内の7小学校の5、6年生の作品205点の応募があり、その中から最優秀賞1点、優秀賞9点、優良賞7点が選ばれました。

選ばれた作品は、期間中文化会館ロビーや各支所等に展示後、最優秀賞、優秀賞の10点が県の防火ポスターコンクールに出展されます。審査の結果は次の通りです（本市関係のみ、敬称略）。

#### 【優秀賞】

川本莉奈（調川小5年）、吉原廉太（志佐小6年）、  
山田紗葵乃（志佐小6年）、  
浜崎宏美（星鹿小5年）、  
浜崎結衣（星鹿小5年）、  
白石美鈴（星鹿小5年）、  
太田愛梨（星鹿小6年）

#### 【優良賞】

井上寧々（今福小6年）、  
鮎川悠大（調川小5年）、  
磯本莉穂（志佐小6年）、  
松本なつみ（上志佐小6年）、  
香林亮晶（星鹿小5年）



### 防火パレード

11月9日、市や市消防団、松浦地区消防組合消防本部が防火パレードを実施し、市民に火災予防を呼びかけました。

この日は、ポンプ車や広報車などが市内の保育所、幼稚園を巡回しながら、園児や沿道の市民に火災予防をアピールしました。

星鹿町のほしか保育園（山口太子園長）では、園児が消防団員らを前に「火の用心」などと書かれた法被姿でマーチング演奏を披露。「わたしたちは、火遊びをしません」と大きな声で約束していました。

